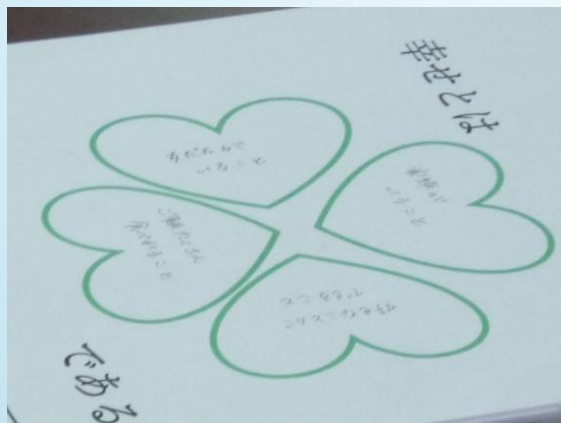


令和6年度 「道徳教育応援チーム派遣事業」 実践校の取組



【道徳教育応援チーム派遣事業】

栃木県では、道徳教育の充実を目指して取り組んでいる学校に対し、教育事務所や市町教育委員会と連携を図りながら、指導主事をチームとして派遣しています。

本事業は、道徳科の授業改善や教師の指導力の向上、児童生徒の発達の段階に応じた道徳性の確かな育成を目指すものです。

令和6年度は、次の3校で実践を行いました。

- ・宇都宮市立平石北小学校
- ・宇都宮市立陽西中学校
- ・益子町立田野小学校

このリーフレットでは、本事業に協力いただいた各学校での取組や成果・課題等について紹介しています。

各学校における道徳教育や道徳科の授業のより一層の充実に向け、実践校での事例をご活用ください。

* 本リーフレットでは、「特別の教科 道徳」を「道徳科」と表記します。

◇研究のねらい

本校では、道徳の授業に対して意欲的に取り組む児童が多い。しかし、全体の前で自分の意見を発表することに抵抗を感じている児童も少なくない。そこで、授業の中で予想される具体的な児童の姿を想定し、発問や教材の工夫をすることで、自分の意見をしっかりと持たせていきたい。また、話し合いを通して道徳的価値に対する考えを深めることができるよう指導方法を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」を実現させていきたい。

◇実践内容

外部講師による提案授業

白鷗大学中山和彦先生による提案授業を通して児童の「問い」を基に、自分の考えを広げ、深めることの大切さを学んだ。これまでの生活体験との関わりを大切にしながら児童の気付きや「問い」を引き出す手立てを考えようとする意識が高まった。

主題に対する興味・関心を高めるための発問を行うことで、クラス全体で考えたいことを焦点化し、児童が主体的に主題に関わる意識をもたせることの大切さを学んだ。



【外部講師による提案授業の様子】

対話的活動を効果的に取り入れた授業

ペアやグループ、学級全体での対話的な活動を意図的に取り入れることで、自分の考えが広がったり深まったりする児童が増えた。

低学年の授業では、役割演技を取り入れることで、児童が自身の生活を振り返り自我関与を促すことができた。

表面的な考えで終わらず自分の事として捉えられるよう、人間理解に基づく切り返しの発問やゆさぶりの発問で、多様な考えを引き出すことができた。



【役割演技の様子】

【話し合いの様子】

校内研修の充実

指導案検討会では、目指す児童の姿を共有しながら、全職員で教材を吟味し、導入や話し合い、表現の工夫、問い返しなど、児童の実態やねらいに沿った学習活動を考えていった。

授業研究会では、「教師のコーディネート」、「問い返し」など協議の視点を絞り、活発に意見を出し合いながら解決策を見付けていくことができた。また、ポイントを絞って成果と課題を整理し共有することで、全員が「明日からの授業に生かせるようにしよう!」との意欲が高まった。



【授業研究会の様子】

○成果と課題（児童や教師の変容等）

- ・ 自己を見つめさせることができるように中心発問を準備したり、話し合いの場面を設定したりしてきた。対話による話し合いを繰り返し体験することによって、自分の考えが広がったり深まったりする児童が増えてきた。また、友達や教師との対話を通して、自分の考えを高めていくことの大切さについて理解することができてきた。
- ・ 題材について自分の事として捉えられず、表面的な考えで終わってしまう児童もいる。自分の考えを深めたり広げたりするとともに、教師からのゆさぶりの発問を行うことで、児童の新たな気付きや内省を促し、価値の自覚を図っていききたい。

●今後の取組

- ・ 全職員の共通理解を図り、道徳の授業の改善・工夫に取り組む必要がある。
- ・ ねらいに沿って児童の多様な考えを引き出せるような中心発問を想定したり、問い返しを考えたりすることで、対話を通して深める授業につなげていく。
- ・ 自らの問いを大切にすることで、児童が主体的に学習していくことになる。また、他人事ではなく、自己を見つめる機会ともなる。道徳科だけでなく他の学習においても生かしていく。

◇研究のねらい

全職員が高い意識をもって、生徒の豊かな心を育成するため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方や人間としての生き方についての考えを深める授業を展開し、道徳的な判断力や心情、実践意欲と態度を身に付けさせたい。

また、生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫し、道徳性を養うことの意義について、生徒自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにしたい。

◇実践内容

講師による模範授業の実践



【模範授業の様子】

富津市立吉野小学校長三浦貴子先生による模範授業では、生徒が真剣に考える発問や場面設定、新たな気づきや発見につながる対話活動、心の揺さぶりにつながるような問い掛けなどが提案された。



【対話活動の工夫】

ペアやグループでの会話、動きながら多くの人と会話など、場面に合わせた対話活動が実践され、生徒の生き生きとした姿が見られた。



【意見発表の工夫】

ICTを有効に活動しながらも、黒板を使った意見の集約・発表など、生徒が堂々と発表する姿が見られた。

ローテーション道徳の実施

各学年でローテーション道徳を行い、教師が一つの教材についての理解を深めることで、指導力向上や自信につながった。また、振り返りシートを教員間で共有することで、生徒の新たな一面を発見することができた。



【ローテーション道徳の様子】

学年毎にローテーション道徳における授業研究会を行ったことで、課題の発見や改善点、新たな視点からのアドバイスなど、教師側の授業力向上や意欲向上につながった。



【学年毎の授業研究会】

要請訪問による授業研究会

要請訪問に向けて、同じ題材を用いた授業を全担任が自クラスで実践した。全校で統一した教材を活用し、道徳教育推進教師が中心となって、授業の展開や発問について情報を共有することで、学級の実態に応じた授業が展開され、教職員の授業力向上を図ることができた。

応援チームの要請訪問（外部講師はリモート参加）による校内研修会を行い、新規採用3年目の若手教員が行った授業への指導助言や、成果と課題、今後の取組などの講評をいただいた。



【校内研修の様子】

○成果（児童生徒や教師の変容等）

- ・ 教職員対象の事前アンケートの結果では、多くの教職員は対話活動を有効と捉えているが、授業で取り入れることに不安を感じていた。しかし、教職員同士が情報を共有しながら模範授業で学んだことを実践し、授業研究会で助言や支援いただいたことが励みとなり、事後アンケートでは、不安を感じている教職員の割合が大幅に減少した。

●今後の取組

- ・ ICTを有効に活用し、情報の共有や少数意見の集約など、効率的にできるようにする。
- ・ 道徳教育推進教師を中心に、各学年の道徳担当教諭が年間を通して計画的に進められるようにする。
- ・ 「考え、議論する道徳」のさらなる授業改善を図り、対話活動の有効な取り入れ方を工夫していきたい。

◇研究のねらい

本校は、ペアやグループ活動を通して、思考を整理しながら自分の考えをもつことができる児童を育成してきた。その中で、相手や目的に応じて考えたことをしっかりと伝えたり、対話を通してお互いの考えを深め合ったりする力が十分ではない様子が見られた。そこで、道徳科を中心に、話し合い活動や動作的表現活動など、多様な学習活動を通して、多面的・多角的に考え、表現することに重点を置き、考えをより深めていく力を身に付けさせたいと思い、研究を進めた。

◇実践内容

同僚性を生かした授業づくり



【低・中・高学年ブロック授業研究会の様子】

教職員が一丸となり、「考え、議論する道徳」の授業づくりを研究した。指導案検討会では、研究のねらいを確認し、児童の実態を把握している担任の考えを基に、複数の教職員が、様々な角度から活発に意見を出し合い、育てたい資質・能力や目指す児童像を整理した。

焦点化した研究授業と授業研究会



【2年役割演技の様子】

【4年話し合いの様子】

研究授業と授業研究会を繰り返し、振り返りを行いながら本研究を進めた。授業の考察をするに当たり、参観のポイントを焦点化した。

(例) 2年生・・・役割演技の効果

4年生・・・中心発問の妥当性、学習形態の工夫

同じ視点で参観することで、効率的に授業研究会を進めることができた。児童の表情や反応を通し、建設的な意見が多く出され、教師の指導力向上につながった。

学びの整理・価値付け

訪問5回目の研究授業は、発問を児童と一緒に考えていくという方法で実践した。十文字学園女子大学の浅見哲也教授を招聘し、授業参観後、授業者と共に振り返りの時間を設け、本時で考えたいことについて、児童と教師が共に話し合いながら課題を見つける効果について話し合われた。



【6年意見交換の様子】

正解のない道徳科の授業においては、教師が授業の進め方に不安をもちながらも授業をしているという側面がある。そのような中、振り返りの時間では、良い点について価値付けをしていただいたり、不安に感じていたことが解決できたりしたことで、教師自身の道徳科への理解が整理された。

講演会では、道徳科の授業についての理解をより深め、今後の更なる質的転換に向け、助言いただいたことで、明日からの道徳科の授業の充実へ向け、意欲を高めることができた。



【浅見教授による講話の様子】

○成果(児童や教師の変容等)

- ・ 教師の明確な意図のもと、ペアやグループ活動、役割演技等、多様な学習活動を実践していくことで、児童が自分の考えを表現し、その考えをより深めていこうとする姿が見られた。
- ・ 学年ブロックで構想した案を基に、事前に授業のポイントを示して参観することで、授業研究会が活発になり、次の課題や授業実践への意欲や同僚性が高まった。
- ・ 話し合い活動や思考の深め方について、初めての試みや提案を取り入れてみたり、修正を加えたりと、「考え、議論する道徳」を教師も楽しみつつ、児童の意見や変容を見取ることができた。

●今後の取組

- ・ 児童が多面的・多角的に考えたり、理由や根拠を明確にしたり、比較したりしながら表現できるように、発問や問い返し、学習形態、板書等を工夫するなど、さらなる授業改善を図る必要がある。
- ・ 児童が安心して自分の考えを表現するために、学業指導を徹底し、学級経営をさらに充実させていく必要がある。

